小学校

平成12年度

教育研究員研究報告書

音楽

東京都教育委員会

平成11年度

教育研究員名簿

地区	学校名	氏名
文京	柳町	堀井弘美
台東	柳北	○松田京子
墨田	隅田第二	◎中村妙子
世田谷	守山	園田明美
練馬	練馬第三	○大川彰
江戸川	二之江第三	赤星光江
八王子	松木	向井美紀
狛江	狛江第七	高野由美子
東大和	第七	土橋由美
羽村	松林	渡辺順子

◎世話人　○副世話人

担当　東京都立教育研究所教科教育部　指導主事　株本光子

目　　次

Ⅰ　研究の概要

1　研究主題設定の理由 …… 2

2　研究のねらい …… 3

3　研究の方法 …… 3

4　研究の構想図 …… 4

5　児童自らが成長を実感できる音楽活動 …… 5

Ⅱ　研究の内容

1　課題のもたせ方 …… 7

2　学習形態の工夫 …… 12

3　評価の工夫 …… 17

資料１　年間学習計画　第４学年 …… 22
資料２　年間指導計画　第４学年 …… 23

Ⅲ　研究のまとめと今後の課題 …… 24

研究主題

児童自らが成長を実感できる音楽活動の工夫

－個と集団のかかわりを通して－

Ⅰ　研　究　の　概　要

1　主題設定の理由

児童が，音楽を愛することによって育くまれた豊かな情操をもとに，自分の生涯を心豊かに生きていくことを私たちは，心から願っている。そのために，児童が深く音楽とかかわり，音楽の楽しさや自ら考え工夫する喜びを味わいながら成長を実感することができるようにしたい，この願いが研究の始まりである。

豊かな人生を送るには，一人一人の児童が確実に基礎・基本を身に付ける中で自分のよさや持ち味などを十分知り，それを生かして生活できるようにすることが大切である。よさや持ち味は，日々の学習において自分なりの感じ方や考え方を生かした活動を繰り返す中で育まれる。そのためには日々の学習が，児童自身が感じたり考えたりしたことをもとに展開され，学習内容が自分のものとなったことを実感できるような展開でなければならない。この実感したものが基礎・基本として確実に身に付き「生きる力」となるのである。

すべての児童は，多くの可能性をもち，今よりもよくなりたいと思っている存在である。児童の感じたことや考えを大切にし，基礎・基本の定着を図る学習を推進するには，この児童観に立つことが何よりも大切である。そしてよくなりたいという願いを実現させ，可能性の広がりを実感できるようにすることが教師の役割である。

各学校では，「生きる力」の育成を目指して，児童一人一人が確実に基礎・基本を身に付けるための指導の改善が進められている。音楽科における「生きる力」の育成をねらいとした授業は，児童と音楽とのかかわりを深め，楽しい音楽活動を活発に行うような学習指導である。私たちは，一人一人の児童が音楽と深くかかわり，音楽を感じること表現することが楽しく快いものであることを味わい全ての個が充実できるようにしたいと考えた。

音楽の学習において個が充実するには，児童が音楽の本質に触れ音楽とかかわりをふかめながら基礎・基本を確実に身に付けること，そして友達と一緒に演奏した一体感や他に認められた喜びを得ることが大切である。これらの活動を通して，児童は自らの学習を振り返り，学習の意味を考える中で，音楽学習における充実感を味わうことができるのである。そして，他とともに学び，新たな発見の喜びを得た成長した自分を実感するのである。

これらの考えから，本研究の目指す児童の姿と研究主題を次のようにとらえ研究に取り組んだ。

(1)　自ら課題をもち，主体的に音楽活動に取り組む児童
(2)　人とのかかわりを通して，音楽を楽しむ児童
(3)　自らの学習を振り返り，次の学習に生かすことができる児童

研究主題

「児童自らが成長を実感できる音楽活動の工夫」

－個と集団のかかわりを通して－

さらに，次の授業改善の視点を設け，この点から研究のねらいを追求した。

○　新しい音楽活動を通して，一人一人が自分の思いや願いをもちそれを実現できる学習活動を進める。

○　音楽を通して人とかかわることの喜びを味わえるようにする。

2　研究のねらい

児童が学習の充実感を得るためには，自ら課題をもつ→創意工夫をする→解決するという児童の思いや願いに基づいた活動が展開されなければならない。この学習過程の一つ一つの活動をいかに児童自身のものにしていくかが指導の在り方として教師に求められている。

(1)　課題のもたせ方の工夫

児童が自分の思いや願いを実現するためには，まず思いや願いを課題としてもつことが大切である。児童が課題をもつということは，教師が提示した課題に対し，一人一人が「これができるようになりたい」「こんなことをしてみたい」「私ならこうする」など，自分が取り組む対象や目標を明確にもつことである。

児童が自ら課題をもつために，教師はどのように題材を構成し，教材や資料を提示し，具体的に働きかけることが効果があるのかその視点を明らかにし，具体化する。

(2)　学習形態の工夫

児童が自ら設定した課題を解決し，充実感を味わうためには，音楽とのかかわり，人とのかかわりが必要である。学習の流れに応じて，一斉学習や個別学習，ペア学習やグループ学習などの学習形態を適切に組み合わせ，一人一人が充実感をもつようにすることである。

児童が，課題解決を実感できるようにするには，学習形態をどのような視点から工夫することが必要かを明らかにする。

(3)　評価の工夫

児童が課題を解決し充実感を味わうには，課題に取り組む一人一人の学習の過程をどのように価値ある経験にするかが重要である。

一人一人の課題解決の過程を価値あるものにするために，児童の学習状況の把握や支援の視点を明らかにする。

3　研究の方法

(1)　基礎研究

・先行研究，文献研究，実践授業，年間指導計画の分析

(2)　授業分析研究

・研究授業を行い，研究の３つのねらいについてその効果的な方法を探る。

・ＶＴＲによる授業記録や児童の作品を分析し，効果的な教師の働きかけ方を探る。

4　研究の構想図

学習指導要領改訂のねらい

音楽科の改善の基本方針

音楽科の目標

表現及び鑑賞の活動を過して、音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を育てるとともに，音楽活動の基礎的な能力を培い、豊かな情操を養う。

目指す児童像

(1)　自ら課題をもち，主体的に音楽活動に取り組む児童
(2)　人とのかかわりを通じて，音楽を楽しむ児童
(3)　自らの学習を振り返り，次の学習に生かすことができる児童

研究主題

児童自らが成長を実感できる音楽活動の工夫

－個と集団のかかわりを通じて－

研究の内容

研究仮説

次の３点から学習指導の改善に取り組むことにより，児童は音楽活動において自ら成長を実感できるようになるだろう。

・課題を意識化するための手だて
・学習形態の組み合わせの工夫
・評価の方法の工夫

児童が実感をもって課題を実現できるために

課題のもたせ方の工夫	学習形態の工夫	評価の工夫
一人一人が自ら課題をもつように働きかける。	学習過程において，一斉，個別，ペア，グループなどの学習形態を適宜組み合わせる。	課題を解決していく状況を自ら振り返る機会をつくる。

研究の方法

(1)　基礎研究
　・先行研究，文献研究，実践授業，年間指導計画の分析
(2)　授業分析研究
　・研究授業を行い，研究の３つのねらいについてその効果的な方法を探る。
　・ＶＴＲによる授業記録や児童の作品を分析し，効果的な教師の働きかけを探る。

研究の成果と今後の課題

5　児童自らが成長を実感できる音楽活動

(1)　児童自らが成長を実感するとは

今までできなかったことができるようになった，自分で工夫したことが認められた等，児童が「楽しい」「できた」「認められた」と感じられるとは，どんなことであろうか。たとえば，「3年生ではできなかった演奏が4年生になってできるようになった」「自分のたてた課題の解決に向けて工夫を重ねたらうまくいった」「今まで感じたことのなかつた美しい響きを感じることができた」など，以前の自分と今の自分を比べた時，新たな自分に気付くことである。この時，児童は，分かる，できる，感じることなどは嬉しく，晴々しく，自信になるという気持ちを味わう。児童のこの状態を児童自らが成長を実感しているととらえた。

(2)　児童自ら成長を実感できるようにするために

ア　個に応じ，個を生かす

学習指導要領の改訂の方針に「ゆとりある教育活動を展開する中で，基礎・基本の確実な定着を図り，個性を生かす教育を充実すること」がある。

児童は，一人一人学習速度，習熟度，学習スタイル，興味・関心，生活経験などが様々に異なっている。みんな異なっていいし，異なっていることが児童の学習や発達にとって有利に働くようにすべきである。

児童の個を生かすには，学習速度や習熟度など個人の差に応じた指導，個人の興味・関心や持ち味を生かす指導が不可欠である。そのためには，一人一人のあるがままの姿を見つめ，的確にその実態を把握することが大切である。その上で，全ての児童が自ら課題を設定したり，それを解決したりすることができる題材の目標の設定や教材選択，活動の設定をする必要がある。

そして人とかかわり音楽とかかわる中で一人一人が自分の持ち味を生かして，音楽の美しさを感じ取ったり，それを表現したりすることができるようにすることである。

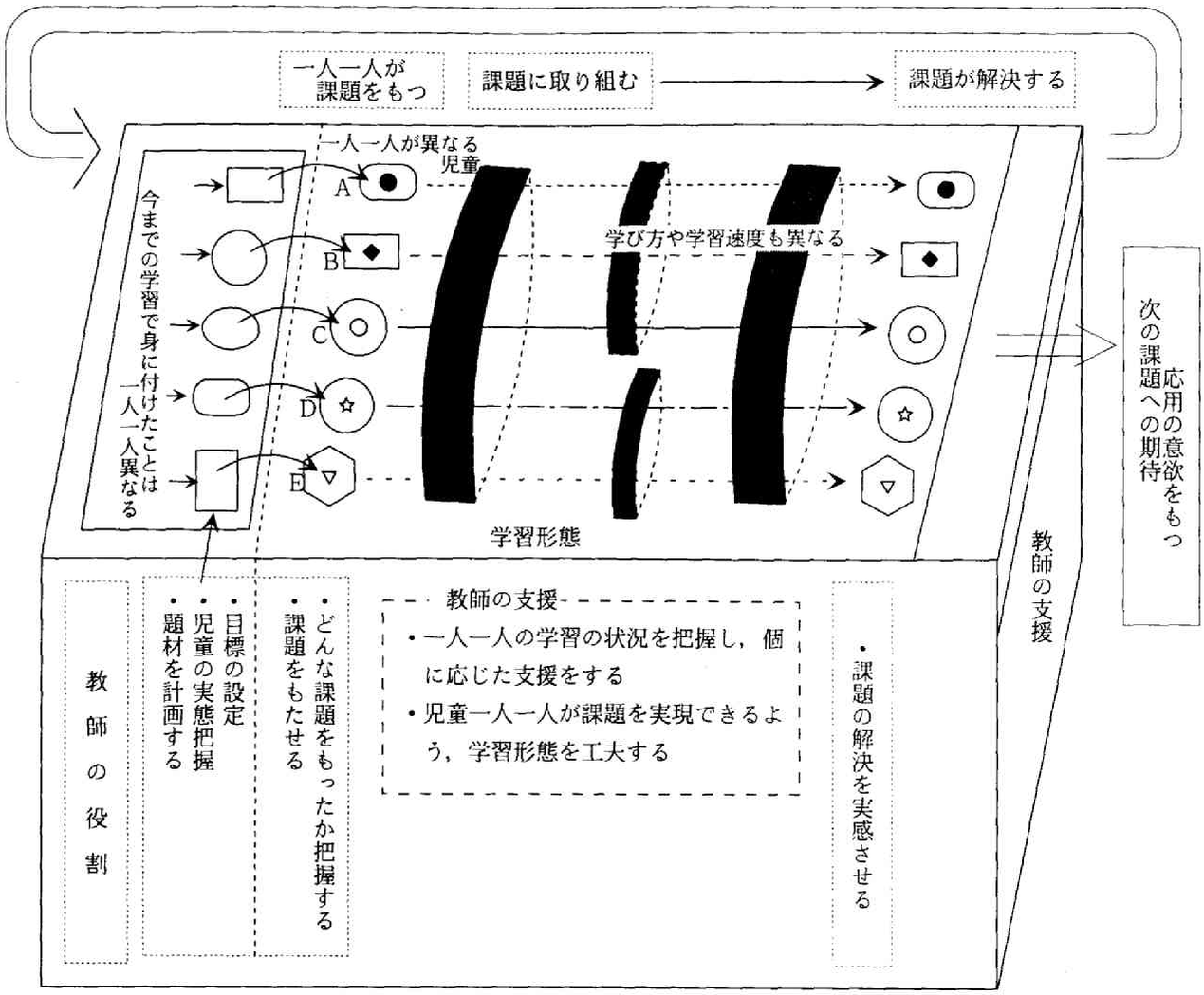
個を生かす指導とは，個別や集団による学習の中で，個の持ち味が十分に発揮できる場をつくることである。

イ　児童の側に立った授業づくり

どの児童も無限の可能性をもち，よりよく変わりたいと思っている。児童の側に立つとは，教師がこのような児童観をもち指導をすることである。そのためには目の前の児童のもつ思いや願い，身に付けている基礎・基本を十分に理解し，発達段階に応じた指導を創り出すことである。

授業づくりの基本を，児童の側に立った計画，実施，評価をすることとした。

(3) 一人一人異なる児童が課題をもち解決に取り組むイメージ図



2　課題のもたせ方

音楽科において児童が課題をもつとは，音楽を自分なりに受け止め，自ら「こうしてみたい」「私ならこうする」という音楽活動への明確な願いをもつことである。

(1)　児童にとっての課題とは

題材の目標を一人一人の児童が実現できるようにすることが教師の役割である。これを自ら学ぶ児童の立場からとらえると，題材の目標を自分のものとしてとらえるのである。例えば，題材の目標「強弱の変化を生かして歌うことができるようにする」がそのまま児童の目標になるのではなく，教師の働きかけによって児童一人一人が「ぼくは，１段目をとんびがだんだん高く飛び上がる様子を強さを工夫して歌う」「私はこの曲に強弱の変化をつけたい」といった自らの取組の課題として明確にとらえることである。

ア　児童にとっての課題

(ア)　やりたいもの，つくりたいもの，解決したいことが明確にある。

(イ)　児童にとって学ぶ必然性がある。

(ウ)　実現可能である，実現の方法が分かっている。

(エ)　実現によって満足感が得られる。

(オ)　発展性があり，次の課題へとつながる。

イ　課題の種類

課題には，１題材全体，１学習内容，１時間，１活動を対象としたものなどがある。児童にどの種類の課題をもたせるかは，発達段階や学習経験，また年間の計画によっても異なる。意図的計画的に，自ら課題をもち課題が解決する喜びを味わわせるようにすることが大切である。

(2)　課題をもたせる教師の役割

ア　題材の目標の設定

児童が自ら課題をもつには，児童に何を身に付けさせるかを明確にするとともに，児童が課題をもち工夫や努力をすれば解決可能な目標を設定することが重要である。そのためには，題材の計画の段階で，児童の願いや学習経験，身に付けている学習内容など児童の実態を的確に把握することが大切である。また，課題の解決を自ら実感できるようにするために，目標を絞り込み，「歌詞の内容を理解して歌い方を工夫することができるようにする」のような包括的な目標には，教師は，どんな歌い方の工夫ができるようにすることを目指しているかを，具体的にしておくことも大切である。

イ　学習活動の工夫

児童が課題をもつには，教師の心を込めた演奏や友達の模範演奏を聴くなど，学習を進めるための必要な要素を繰り返し聴いたり演奏したりすることによって，音楽を表現する上でその要素が心地よいもの楽しいものであることを実感できる場をつくることが大切である。この場を題材や単位時間の始まりに設定するとともに，感じ取ったことを生かして自分は何を表現したいのかという課題づくりの時間をつくるようにする。また，学習経験によって児童が身に付けている音楽的な要素を生かして，自ら課題をもつようにすることも大切である。

○教師と一緒に課題を解決するために必要な要素を感じ取ったり，課題を解決する方法を学んだり，知識理解や技能習得のポイントに気付いたりする。 強弱を生かして表現することや，ふしを重ねることは，こんなにも気持ちがいいものだ等を実感する。 「リコーダーのあの音はいい音だ，タンギングの仕方は分かってきた。」	**○課題をもつ。** 感じ取ったことを生かして，「私は，こんなことをしたい」など具体的な取組を考える。 「私は，水の精がお話しするように，きれいな澄んだ音でオーラリーを演奏したい。」

（平成11年度都立教育研究所　教科プロジェクト研究参照）

これらの学習活動において大切なことは，児童自身が感じ取ったり，理解したりようにすることである。教師の感覚や知識を押しつけるのではなく，児童が興味をもって感じ取ったり気付いたりするような働きかけが必要である。

(ア) 学習に必要な要素を取り上げ，聴くようにする。
- 教師のモデル演奏を聴く。
- 児童のモデル演奏を聴く。
- 児童のモデル演奏と教師の演奏とを比較して聴く。

(イ) 演奏を聴いて児童自身が感じたことを引き出すように助言をする。
- 学習に必要な要素を感じ取り，自分はどう感じたかをことばや体全体で表現する。
- 教師が感想を言うときは，できるだけ児童の後から話し，教師としてではなく，一人の人間として感じ取つたことを伝えるようにする。

T　「この歌を聴いたら，どんな気持ちになりましたか」
A雄「ゆったりしたのどかな気持ちになりました。」
B子「ふるさとの景色が浮かんできました」
T　「私も，自分の小さい頃育ったふるさとを思い出しました。」

(ウ) 感じ取ったことを生かし，何を表現したいか，一人一人の気持ちを引き出す。
T　「あなたたちは，何をあらわしたい？」
C子「私は，辺り一面レンゲの花がとぎれないで咲いている様子を表したい。」
T　「一人一人はどんなふうに歌いたい」
D夫「ぼくは，『夢は今もめぐりて』を気持ちがふくらんだように声の大きさを変化させて歌いたい。」

(エ) 児童が課題を解決するための方法に気付くようにする。
- 今までに学習した「表現を工夫するための手だて」を思い出すようにする。
- 表現を工夫する手順を思い出したり，確認したりする。

※　このほか，課題の解決に必要な知識や技能習得のポイントを示す場合にも，表現に生かすと効果があることを共に味わうという立場で児童に示すようにする。

(3) 授業分析　　（第３学年）

ア　題材名　“めざせ！音楽発表会”

(ア) 小題材①「様子を思いうかべて歌おう」

(イ) 小題材②「間奏をつくろう（本時）」

(ウ) 小題材③「音楽と朗読で物語を表現しよう」

イ　題材の目標

(ア) 小題材①　様子や気持ちを思いうかべて，歌い方を工夫することができるようにする。

(イ) 小題材②　様子を思い浮かべて歌つたり，リコーダーを吹いたりすることができる。

(ウ) 小題材③　様子に合う音色をつくって表現することができるようにする。

ウ　教材「かさじぞう」

エ　全体指導計画

「様子を思いうかべて歌おう」			
	学習内容	学習活動	教師のかかわり
2時間	・物語のあらすじを理解する。 ・歌い方を工夫する。	・歌詞や朗読から物語のあらすじをつかみイメージを広げる。 ・登場人物の気持ちや，場面の様子を想像して歌う。	・範奏を視聴して憧れをもつようにする。 ・範唱や友達の歌い方を聴き，いろいろな歌い方を一緒に感じ取りながら，自分なりの歌い方を工夫するようにする。
「間奏をつくろう」　**本時３／３**			
3時間	・間奏をリコーダーで吹く。 ・情景に合う音の出る楽器を選び，間奏にリズム伴奏をつける。	・音色に気をつけてリコーダーを吹く。 ・グループに分かれて，楽器を選ぶ。 ・音の出し方に気を付けて演奏する。	・範奏や友達の演奏を聴き，いい音色を十分に感じ取り，どうしたらその音がでるのか考えるようにする。 ・自分はこうしようという思いをもつようにする。
「音楽と朗読で物語を表現しよう」			
3時間	・朗読や効果音，伴奏を入れて物語を表現する。	・今まで学習してきたことを生かして，自分の持ち味を生かした役割分担をし，表現する。 ・様子を思い浮べながら演奏する。 ・聴いている人に物語が伝わるように演奏する。	・二つの小題材の学習で自分ができるようになったこと，得意になったことを思い出し，取り組むようにする。

オ　本時の学習の分析

(ア)本時のねらい　・リコーダーや打楽器の音色に気を付けて，様子に合う間奏を演奏する。

	学習活動	教師の働きかけ	子どもの反応	分　析
課題をもつ	**◎教師とともにいい音色を感じ取ったり、いい音色の出し方のポイントに気付いたりする活動**			
	○課題をもつ ・「かさじぞう」の歌を歌う。	・おじいさんの様子を思い出して3番まで歌うように指示する。 ・「気持ちを込めて歌えたね」と評価をする。	・柿子に腰をかけて3番まで歌う。 ・児童は，教師の言葉を聞いている。	・全身で表現できるようにためには起立させたほうがよかった。
	・問奏をリコーダーで演奏する。	・教師が情景を思い浮かべられるように前奏からピアノ伴奏をする。 ・「きれいな音で吹けたね」と評価をする。 ・「この前の時間，様子を思い浮かべる音を探したとき，とてもいい音を出していた人を見付けた。誰でしょうか。」といって，S男を紹介する。 ・「先生よりいい音を出していたからクラベス大先生です。」と紹介する。	・ほとんどの児童が間奏を気持ちよさそうに吹いている。 ・だれだろうと見まわす。 ・S男だ。どうしてなのかな。	・タンギングと音の強さに気を付けて吹けていた。 ・S男の登場に，児童は大変興味を示し，集中して話を聴くことができた。
	・教師のクラベスを聴く ・友達の模範演奏を聴く。 ・S男のクラベスの音の出し方を知る。	・はじめに教師が響かない音を出す。 ・次にS男に音を出すように指示する。 ・もう一度どうすればいいのか説明しながら音を出してもらう。 ・「今度は，S男先生のよ	・すごいな。 ・どうして。 ・もう一度やって。 ・わかった。 ・持ち方にコツがあるんだな。 ・ぼくもやってみたい。 ・早くやりたいよ。	・S男のすてきな音を聴いて驚きの気持ちが，すぐに挑戦の気持ちに変わり，意欲

		うに，いい音で演奏します。」といいながら，黒板に右のように書いた色画用紙を貼る。 ・グループで友達がいい音が出せているか，交代してよく聴き合うように伝える。 ・S男の音の出し方を思い出して，互いにアドバイスをするように指示する。 ・今日することが分かったかどうか挙手で確認する。 ・グループでの活動場所と協力することを指示する。	・S男に挑戦しよう。 ・もっといい音を出してやろう。 いい音の出し方をくふうしよう ・全員手を挙げる。	をもつことができた。 ・この時，一人一人に自分のイメージとよい音を結びつけるような働きかけはなかった。
課題に取り組む	**◎課題の実現に向かって、児童自ら取り組む活動**			
	○課題に取り組む ・グループに分かれ音の出し方に気を付けながらリズム伴奏を演奏する。 ・リコーダーとリズム伴奏のモデル演奏を聴く。	・グループで課題に取り組んでいる状況を把握し，助言をする。 ・交代して全員がいい音の出し方を試すように指示する。 ・強い打ち方の児童を選び，リコーダーとあわせてもらう。 ・リコーダーも負けずに聴こえるように，強く吹いてとうながす。 ・リコーダーもリズム伴奏もいい音で聴こえる音の大きさに気づかせる。	・教え合っている。「持ち方が違うと響かないよ。教えてあげるよ」 ・「きれいじゃないよ。」 ・「けんかしてるみたい。」	・グループ毎に活動の方法を指示した。 ・ほとんどの児童が音の強さに気をつけて演奏していた。

【考 察】

教師と児童がモデルになっていい音色とよくない音色を聴き比べる機会をつくつたので，一人一人の児童は，いい音色のイメージを鮮明にすることができた。

課題をもって音づくりへの追究ができるようにするためには，さらに様子に合う音をつくるという個々の課題に明確に結びつけることが大切である。

2　学習形態の工夫

(1)　音楽活動における学習形態

音楽科の学習では，児童が積極的に音楽にかかわって，音楽を聴いて「楽しい」「気持ちがいい」など，自分の感じたことや考えたことを表現に生かせるような学習活動が大切である。そのためには，画一的に学習内容を学ぶのではなく，児童自身が音楽に興味をもち主体的にかかわり，自分の課題を見つけ，自ら解決していくという学習活動ができるように教師は学習の方法を工夫する必要がある。

学習形態とは，学習過程の中で児童が学習のねらいを実現するための動的なしかけととらえた。よって児童の学習状況により柔軟な学習形態の選択や組み合わせが必要である。

(2)　個の学習の充実と学習形態の工夫

児童が自ら課題をもちそれを解決する学習は，個に応じ個を生かす，いわば個人差に応じ個人の持ち味を生かすものでなくてはならない。音楽の学習は，音楽とかかわりながら一人一人が，音楽の楽しさを深く味わったり，工夫したりするものである。そのためには，個別の学習，一斉での学習，ペアやグループでの学習を，音楽とかかわる，人とかかわるの両面からとらえ，個の課題が解決するよう学習形態を工夫することが大切である。

学習過程と学習形態の関連を次のようにまとめた。

学習過程	興味・関心をもつ → 課題をもつ	→ 課題に取り組む	→ 課題が解決する
学習形態	＜一斉学習＞ ・共に，音楽を聴いたり，演奏したりして感じ取る。考えたり，気付いたりしたことを情報交換する。 ※課題をもつ状況によっては，隣同士のペアで話し合つたり，個別に調べたりする。 ＜個別学習＞ ・調べたり，技能習得を試したりする ＜ペア学習、グループ学習＞ ・情報収集，情報交換	＜一斉学習＞ ・課題は個別でも，最終的に協同で一つのものをつくる。 ・相互評価 ＜ペア，グループ学習＞ ・表現形態と関連 ・相互評価，承認，賞賛 ・課題の取り組みを聴き合う（相互評価） ＜個別学習＞ ・課題に取り組む	＜一斉学習＞ ・成果を確認 ・共に楽しむ ・相互評価 ・いろいろな形態で聴き合う ・感動を共有する ＜ペア，グループ学習＞ ・表現形態と関連 ・相互評価、承認、賞賛
活動例	**一斉** リコーダーの音色は，きれいで気持ちがいいな。 トゥの吹き方がいんだな。 **一斉** 小鳥がいい気持ちで鳴いているように，吹いてみたいな。 トゥの吹き方を使うといいんだな。	**個別** まず，トゥの出し方にチャレンジ。 **ペア** 「ぼくの音，トゥに聴こえる？」	**一斉** 「小鳥が朝、目を覚ました時のすがすがしい気持ちを吹きます。聴いてください」 「気持ちよさそうに歌っているように聴こえました。音がきれいだからです。」

＜学習形態とその特徴＞

学習形態	それぞれの学習形態のよさ （※必要な配慮点）	活　動　例 （☆留意点）
一斉学習	ア　音楽的な感動を共有できる。 ・音の重なりの厚みなどのダイナミックな演奏を実感できる。 ・聴衆が一体となって高まってくるような感動的な鑑賞ができる。 イ　相互に高まり合える。 ・個が全体とのかかわりの中で各々のよさが発揮できる。 ・互いのよいところを聴き合って，より豊かな表現を目指そうとするようになる。 ウ　教師の意図を学級全体に伝えることができる。 ・学習に必要な要素を感じ取ったり，課題を解決する方法を学んだり，知識理解や技能習得のポイントに気付いたりする。 ・成功した例から学び方を学ぶことができる ※一斉学習の際には，特に一人一人の子どもの学習状況をていねいに見ていく。	・合唱や合奏など大人数で演奏する ・音楽をじっくりと聴く。 ・合唱や合奏，劇などを学級や学年で協力してつくりあげる。 ・範唱や範奏を聴いたり，互いの課題を共に考える。 ・音楽的な要素を感じ取って聴く。 ・リコーダーの奏法のポイントに気付く。 ・課題を解決する手順を知る。 ☆一人一人の児童を理解するために，ピアノなどから離れ，できるだけ児童のそばに行く。
ペア学習 グループ学習	ア　児童が自分たちの力で様々なことを試みたり，つくったりできる。 ・児童一人一人の発想を生かした学習活動が活発にできる。 イ　個を生かし，社会性を育てる。 ・互いの気持ちを前面に出して，ぶつかり合ったり協力し合ったりして，お互いを認め合い高め合う。 ウ　ペア学習で学習内容の定着を図る。 ※グループが十分機能するよう，グループ内での役割分担や個々の課題が必要。 ※学習内容に合った人数、発達段階に応じた活動を見極めるようにする。	・ペアで，リズム伴奏をつくる。 ・課題の取組状況を互いに聴き合い、よりよい課題の解決を目指して意見を言う。 ・リコーダーのタンギングの仕方を確かめる。
個別学習	・自分のレベルやペースに合った学習ができる。 ・自分の課題を追求することができる。 ・教師が児童に一対一の指導をすることができる。	・自分の課題に向かって取り組む。

（「平成５年９月　新しい学力観に立つ音楽科の学習指導の創造」文部省　参照）

(3) 授業分析　第4学年

ア　題材名「作曲あそびをしよう」

イ　題材のねらい

・リズムや音を工夫し，つくって表現する楽しさを味わう。

・簡単な旋律をつくることができるようにする。

ウ　本時の学習

(ア) 本時のねらい

・「ドレミソラ」の5音を使って，作曲あそびをする。

・友達の演奏を聴き，よいところを見付けようとする。

(イ) 評価規準

・5つの音から自分の好きな音を選んでふしをつくっている。

＊児童がイメージする言葉ことば

「3つの音で歌みたいなのができた」「2つの音だけどふしがつくれた」「終わる感じにできた」

・友達の作品のよいところを見付けられる。

＊児童がイメージする言葉

「1つの歌みたいだった」「やさしい感じの曲だった」

(ウ) 展開

○学習内容　・学習活動	学習形態　○教師の働きかけ　・児童の反応	分析・考察
◎教師とともに音楽を感じ取ったり課題の取り組み方を学んだりする活動		
○The fireman を歌う。	一斉学習	・ヘルメットを回したので少し拍からずれたが、拍の流れや弾むリズムは意識ができた。
・楽しい雰囲気で「The fireman」を歌う。	○拍の流れを意識するようにヘルメットを回す。	
・曲にはリズムがあることに気付く。	・拍にのってヘルメットを隣の人へ回しながら歌った。	
○課題をもつ	○児童のつくったふしを木琴で弾く。	
・友達のつくった1つの音や2つの音でつくったふしを聴く。	・友達のつくったふしを聴きながら、ふしのつくり方を思い出す。	・友だちや教師の例に興味をもって聴くことができた。
・教師のつくった5つの音のふしを聴く。	○ 教師がモデル演奏をし、「いくつの音を使いましたか。」と質問する。 ・児童 A　「5個」	
・最後にラの音をつかった終わる感じのふしを感じ取る。	○ラの音で終わるふしを木琴で弾く。 ・何人かの児童が、ラで終わると終わった感じになることを感じった。	・ラで終わる感じを全員が感じ取るためには、聴くだけではなく、いっしょに歌ったりした方がよかった。
・自分は、どの音をつかってふしをつくるかを考える。	○自分の作品をつくるという意識がもてるように「作曲家になって自分の曲をつくってみてください。」と話す。	・ほとんどの児童が前時までの学習経験を生かしてどの音をつかってふしをつくるか考えていた。 ・全員が課題をもっている

		かを確認し、まだもてない児童には今までしたことを思い出させたり、例を示したりする必要がある。
◎児童が自ら課題に取り組む活動	個別学習	
○ 課題に取り組む 5つの音から好きな音を選んで、4／4の2小節のふしをつくる。 ・ふしづくりをする。	○学習が進まない児童には例を示したり模倣したりできるようにした。	・何人かの児童が木琴を弾きに行くことで、自分のふしができたことを実感した。(自己評価)
・つくった子どもは、聴き合う木琴の場所に行って、友達とふしを聴き合う。	○ふしがつくれた児童は、ペア学習の広場でペアを組み聴き合うようにした。 ペア学習 個別の学習	・聴いた児童は「曲みたいだな」「2 つの音を一緒に鳴らしてすごいな」などとよいところを認め合った。(相互評価) ・作品ができた児童には、個に応じた課題を与えるとよかった。
・ペアで聴き合う学習が終わるとまた次のふしを個別につくる。	○できあがった児童にはペア学習の広場に行って聴き合うように指示をする。	
◎課題が実現したことを実感する活動	一斉学習	
○ 発表する ・聴かせてあげたい、つくったふしを、みんなの前で演奏する。	○聴かせたい自分のふしをみんなの前で発表するようううながす。 ・児童A「踊りの音楽みたいだな」 ・児童B「音が高い方と低い方を行ったり来たりしてやまびこのようだった」	・友だちのよいところを見付けることができた。 ・ドレミソラと言う音の提示をしたので、「ラ」で終わるような感じの曲にするのが難しかった。

〈考察〉

一斉学習，個別学習と，ペア学習の組合せによって，一人一人の課題の取り組み状況を教師も児童自身にも把握できたので，一層個に応じ個を生かす適切な指導の機会が見いだせた。

「ドレミソラ」の音を使って、作曲しましょう。

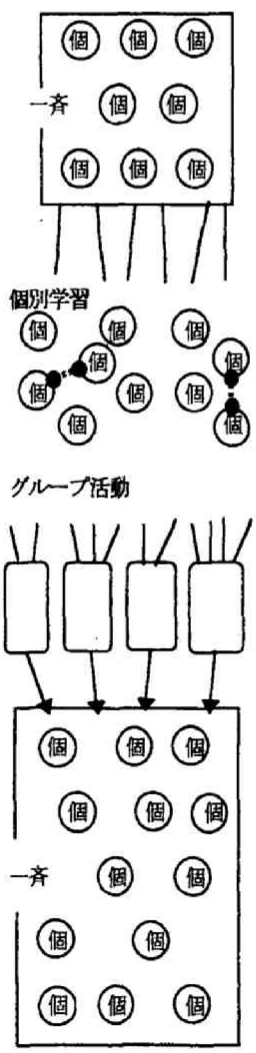
〔児童の作品〕

メモ ラーミミ ラーミミ ソミソミ レーソソラーミ
ターティティターティティ ティティティティ ターラティティタースン
ドミミミドミミミ ドミソラーミ
ティティティティティティティティ タタタタースン

(5)　その他の事例の学習形態の流れ

題材名	「合わせてみよう。」(第3学年)
題材の目標	それぞれの楽器で演奏する音やリズム，メロディーの重なりの楽しさを感じとれるようにする。（教材名「パフ」）
本時の目標	いろいな楽器の音色や演奏方法を知り他の楽器と合わせて演奏する。

学習形態の工夫



児童の活動・思い

○　教師の説明や演示を聞く
・木琴でいい音を出してみたいな。
・違う楽器と合わせるとどんな感じになるのかな。

課題と出会う

○　それぞれの楽器の個人練習をする。
○　友達同士で教え合う。
○　グループで合わせる練習をする。

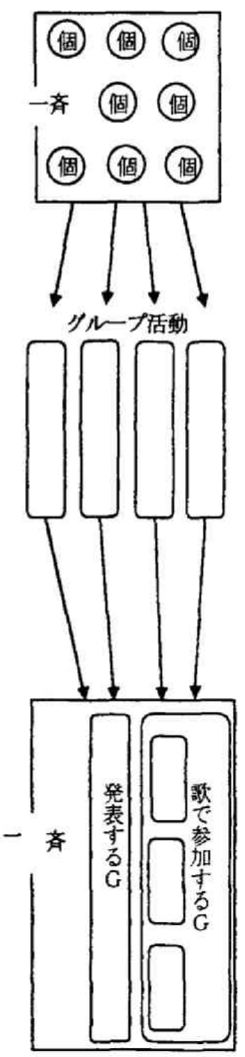
課題に取り組む

○　それぞれのグループの発表やグループの合同演奏をする。
・みんなの息がピッタリ合ってじょうずだな。
・リコーダーだけの時よりかっこいい曲になったな。

課題が解決する

題材名	「『三びきのこぶた』の気持ちを音で表そう。」　(第1学年)
題材の目標	・歌詞の内容を思い浮かべて表現する楽しさを味わう。 ・こぶたやおおかみの気持ちを表す音を工夫して表現する。 ・友達と一緒に「三びきのこぶた」をつくり上げる喜びを味わう。
本時の目標	・様子を思い浮かべて表現する。 ・自分たちの「三びきのこぶた」を楽しく表現する。

学習形態の工夫



児童の活動・思い

○「三びきのこぶた」をみんなで歌う。
・どんなこぶたになろうかな。
・こわそうな音を出したいな。

課題と出会う

○　担当になった役割の動きづくり音さがし
・おおかみはどんな動きにしたらいいかな。
・何の楽器で音をつくろうかな

課題に取り組む

○　グループで発表し合う。
・みんなで協力して発表を成功させよう。
・歌のところは全員で歌って劇を盛り上げよう。
・できてよかった。
・楽しかった。

課題が実現する

3　評価の工夫（児童が自らの成長を実感できる評価のために）

児童は学習の中で自らの課題をもち，それを試行錯誤しながら解決していく。その中で立ち止まって考え，また新しいアイデアを試し，時には友達の意見や協力を得ながら解決を目指していく。そのことを適切に評価することは，児童一人一人が主体的に意欲をもって音楽に取り組み，課題解決を実感する上からも大切である。そのために以下の３点に焦点をあてて評価に取り組んだ。

(1)　児童が振り返る場の設定

児童は自らの学習を絶えず振り返りながら学習を進めている。児童が課題をもち，主体的に学習を進めるために，教師は学習過程の様々な場面で児童に意図的に振り返りを意識付けることが大切である。そこで，年間あるいは学期，題材の段階に分けて振り返りの場を工夫した。

ア　年間を通した振り返り「児童の年間学習計画」　（資料１）

児童が学習経験を次の学習に積極的に生かし，基礎・基本を確実に身に付けるには，学期の始めや終わり年度の終わりなどに自らを振り返える場を設けることが大切である。

そこで，先行研究を生かし，児童の年間学習計画を作成した。今，自分はどんなことができるか，どんなことが得意かなどを振り返ったり，これからどんな学習をするか見通しを立てたりして，身に付いた力をこれからの学習に積極的に生かしたりできるようになることを意図して作成した。

(ア)　作成のポイント

- 学習指導要領の目標や内容をもとに，児童の実態に応じて内容を児童に分かりやすい言葉で作成する。
- 「できた」「できない」という表現ではなく，自分にとって満足であるかどうかを記すようにした。

(イ)　活用の仕方

- 学年や学期の始めに，学習経験や満足できるようになったことを確認する。
- 確認に際しては，必要に応じて項目を選ぶようにする。
- 題材の計画時に，教師が一人一人の児童の実態把握をするときの資料とする。
- 一斉学習によって記入したり，個別に児童と教師が話し合って記入したりすることもできる。

イ　題材全体，単位時間の中での振り返り

各題材の目標は，児童が自らの学習状況を知り，課題が解決したことを自ら実感することによって実現する。課題は，題材の学習過程において自己評価や相互評価，教師による評価が絶えず組み合わされて，取り組みをさらに繰り返したり，修正したりしながら解決に至る。

次の表は，子どもが振り返る場の流れである。ここでの自己評価は，「これでいいのか」という自分の小さな振り返りから，教師が意図的に振り返りを促し活動を自己評価させるものまで含まれる。同様に，相互評価についても，活動の中で互いに表現の工夫を見たり，意見を出し合ったりするものから，活動として評価し合うものまで含まれている。

教師は絶えず児童の学習状況を把握し，表に示すように学習の流れの要所要所で状況に応じて児童に振り返りを促し，自らの学習の状況に気付くようにする。

＜児童が振り返る場＞

①学習を始める前の自分の願いや活用したい力などの状況をつかむ。
②自ら課題をもつ
③友達や教師の評価を受け，さらに課題を明確にする。
④③で得た課題をもとに，自分で課題に取り組む。
⑤課題に向かって進んでいるかを考えながら取り組む。
⑥課題が解決した時に，課題をもつ前の自分と比較する。
⑦友達や教師に認められることによって，さらに自分の成長を実感する。
⑧次の課題への期待，他への応用への意欲を持つ。

（自己評価・相互評価・教師による評価）

＜事例＞

題材名「音楽とろう読で物語を表現しよう」第５学年

題材の目標　・楽曲の感じや歌詞の内容から情景を想像し表現を工夫することができるようにする。
・お互いのよい所を認め合い協力して音楽物語をつくる。

本時のねらい・友達と協力して表現の工夫をする。

学習内容	学習活動	◇児童の評価（自己評価・相互評価） ☆教師による評価 ○方法
・情景を思い浮かべて歌う。 ・前時までの学習を確かめ本時の課題をもつ。	・「銀河鉄道の歌」を歌う。 ・グループの進み具合いを確認し、今日の課題を明確にする。	☆表現の工夫をしている。 ◇自分の課題をもった。 ○グループ表を確かめる。
今日はこれをしよう		
・グループで課題に取り組む。	・歌詞のイメージにあう音をつくって表現する。 ・お互いの工夫を鑑賞し話し合う。	☆それぞれの工夫を感じ取ったり認め合ったりしている。
友達に物語が伝わるように表現しよう		
・互いに聴きあって感想を述べ合う。	・自分たちの思いを発表に活かす。 ・友達の工夫や物語を感じ取るように聴く。	☆自分の工夫や思いを表現している。 ☆よさを認めながら聴いている。 ◇友達の演奏を聴くことで自分の工夫はどうだったのかふりかえるようにする。 ○ねらいやそれぞれの課題にそって発言するように助言する。
こんな工夫もあるんだな		
・次の学習への意欲をもつ。	・発表した気持ちや感想を開く。 ・次回の発表に向けての課題を確認する。	◇自分を振り返り、友達のよい点を認める。 ○挙手によって確認する。 ☆さらに工夫しよくしたいと思っている。

(2) 評価規準に児童の言葉を

児童にとっての評価は自らの学習状況に気付き，自分を見つめ直すきっかけとなり，その後の学習や発達を促すという意義がある。そのために，児童が自らを振り返る場を設定し，考える時間を保障することは前述のとおりである。

ここでは，児童が自らの課題に照らして学習の状況を振り返り，さらに課題の解決を目指すことができるようにしたいと考え，評価規準を児童に分かりやすく，イメージしやすい言葉をつけ加えた。

＜例＞

題材 「音色を感じ取って合奏しよう」第４学年
題材の目標
・楽器の音色の響きを感じ取って演奏することができるようにする。
評価規準
ア いろいろな楽器で合奏する楽しさを味わっている。
イ 楽器の音色の響きを感じ取っている。
ウ 他の楽器の音色を感じ取りながら自分のパートを演奏できる
エ いろいろな楽器の音色の重なる豊かな響きを感じ取っている。
児童がイメージしやすい言葉（評価規準のイについて）
・いろいろな楽器の音色が聴こえる。
・音の出し方によって音色が違うのが分かる。気持ちのよい音が分かる。
・自分の担当した楽器の気持ちのよい音色が分かる。

この例のように，児童が課題を実現している状況を，具体的にイメージしておくことは，教師が児童の学習状況を見ていく際にも，よりていねいに見ることができ，個々の児童にも適時適切な振り返りを促したり，支援をしたりすることができる。

この「児童にわかりやすいことば」を，４つの観点すべてにわたって設けることも可能であるが，本研究では，児童の課題に直接関係のある観点について設けるようにした。

児童の言葉をつくる観点

①何がどの程度できていればよいかが具体的である。

②児童の気持ちや感じたことを，イメージして作成する。

③児童が理解できるやさしい言葉を使う。

④児童が課題を解決した様子をイメージして作成する。

(3) 評価の実際

実際の評価においては，児童の自己評価を大切にすることが重要である。児童が，意欲を継続して学習に取り組むには，自らの学習状況を的確に把握し，それを肯定的に受け止めていることが大切である。そのためには，まず的確な評価規準を児童に提示しておくことである。そして教師は，児童の課題の取組状況と児童の自己評価の状況を適切にとらえ，児童が課題を解決するための支援をすることが必要である。支援に当たっては困難な状況を越えたり，よりよいものを求めたりするための内容や方法を提示するようにする。提示する内容や方法は，児童が自分の力で取り組むことができる内容やステップを示すことが大切である。

このように児童と教師の評価を適切に関係付けることによって，児童の評価観が育ち，自分に応じた主体的な学習を進めることができるようになる。

学習の流れに沿って，児童の振り返り，教師の評価を整理すると次のようになる。

＜自己評価＞	学習の流れ		
	課題をもつ	課題に取り組む	課題解決を実感する
主な自己評価	○自分の学習状況を知る ・今，自分には，どんなことができるか ・自分はどんなことに興味をもっているか ・自分が一番したいことは何か	・どこまでできたか ・今，これで困っている ・どこでつまづいたか ・これから何をすればよいか ・楽しさが分かった ・気持ちのいい表現の感じが見付かったか ・もっと工夫できないか	・はじめに表現したいこと思ったことが表現できるようになったか ・気もちのいい感じがつかめたか
教師の配慮事項	○課題が目指すものを具体的にイメージできるようにする ○児童が考える場（時間やスペースなど）を設定する	・活動の様子を十分把握してから必要な支援をする ・よさを見付けほめる ・何とかしたいという気持ちを受け止める ・自己評価を肯定的に受け止められるようにする	・学習前の自分との比較を促す ・考えたこと，気付いたことを本人のものとして意識付ける ・共に味わい喜ぶ

＜自己評価＞	学習の流れ		
	課題をもつ	課題に取り組む	課題解決を実感する
主な相互評価	・友だちの課題を知ることにより，一人一人課題が異なることに気付く	・友達の取り組む様子に気付き，友達のよさを認めたり，自分の参考にしたりする	・友達と取り組みの成果を聴き合い，それぞれのよさに気付き，違いを認める ・自分の特徴に気付く
教師の配慮	・評価規準を参考にしながら児童に投げかける言葉を明確にしておく ・何を相互評価するかを明確に示す	・ペア，グループなど児童の学習状況に適切な相互評価の対象を決めて聴き合うようにする	

教師の配慮事項	・課題をもつために児童と共に聴いたり，一緒に演奏したりする	・日常から，誰の意見も受け容れたり，友達のよさを認めたりできるようにしておく ・取組の参考するように促す	→

〈計　画　時〉		学　習　の　流　れ		
	題材の計画	課題をもたせる	課題に取り組ませる	課題解決を実感させる
教師による評価	・一人一人の実態を把握する ・実態把握に基いた目標を設定する ・評価規準をつくる	・一人一人が課題をもてたかどうか把握する ・指導計画を修正する	・学習の状況を把握する ・目標が実現するよう支援する 賞賛 アドバイス	・一人一人の解決の状況を把握する ・達成感を自覚できるようにする →
方法や教師の配慮事項	・学習内容に関する学習経験や身に付けている内容についての実態を分析する ・一人一人の達成目標をつくる ・児童の学習計画や今までの作品を参考にする ・評価計画を立てる	・発言の機会を設けたり，記述させたりする ・教師が判断し評価するよりも，児童に自分で感じ取つたり考えたりすることを優先する	・一人一人をよく観察し，個に応じるアドバイスをする ・タイミングを計る → ・児童が自分の学習の取組に気付く場を設ける ・課題修正の可能性を考えておく	・一人一人を認めることばかけや記述をする ・取り組む前と比較し自覚をうながす → ・教師も心から認め、共に喜ぶ

なお，実際の場で多く活用されている学習カードは，自分が活用したい力，課題などの意識化，学習過程の把握，自己評価，相互評価等いろいろな場面に有効であるが，書くことに意識が向き過ぎ，本来の活動に支障をきたす場合もある。発達の段階や実態学習内容に応じた活用が必要である。また，観察は，教師による評価の基本をなすものである。児童の課題への取り組み状況や児童の表情やつぶやきなどを見逃さないようにすることが大切である。

資料１　年間学習計画　第４学年

A市立B小学校４年生の音楽　　**音楽となかよしになろう**

組　　名前

３年生・４年生の音楽の目標

1）音楽となかよくして生活に生かそう。

2）メロディーを大切にして，歌ったり楽器を演奏したり，リズムをつくったりして楽しもう。

3）音楽の美しさを感じられるようになろう
そして，いろいろな音楽を聴(き)こう。

学期	月	年間学習予定
1	4	**歌声広がれ**
	5	・友だちと楽しく歌おう ・二部合唱にチャレンジ
	6	**ふしの感じを生かして**
	7	・歌い方を工夫しよう ・いろいろな歌い方をしよう
2	9	**いい音えらんで**
	10	・音色のちがいに気付こう ・リズムにあわせて
	11	**様子を思いうかべて**
	12	・拍子を感じて歌おう ・長調と短調のちがいを感じ取ろう
3	1	**みんなであわせて**
	2	・二つのふしをかさねよう ・物語の様子に合う音を工夫しよう
	3	**明るい声で** ・美しく歌おう

まんぞくできたら　◎をつけよう				
４年生のめあて	ふりかえった月日			
	／	／	／	／
①　然な（むりをしないで）声で歌う				
②　音楽をきいて歌う				
③　歌詞にあった歌い方をする				
④　がくふ（ハ長調）を見て歌う				
⑤　音楽に合わせて楽器をえんそうする				
⑥　がくふ（ハ長調）をみて楽器をえんそうする				
⑦　いい音を楽器でだす				
⑧　リズム，はやさ，強弱を感じとって体を動かす				
⑨　リズム，はやさ，強弱を感じとってえんそうする				
⑩　いろいろな音を使ってリズムやふしをつくる				
⑪　楽器の音や曲の変わり方を楽しんできく				
〈メモ〉				

資料２　年間指導計画（第４学年）

『学年目標』第4学年			A 表現									B鑑賞			主な学習活動	教材
（1）進んで音楽にかかわり，音楽活動への意欲を高め，生活の中で音楽経験を生かせるようにする。 （2）旋律に重点を置いた活動を通して，基礎的な表現の能力を伸ばし音楽表現の楽しさを感じ取るようにする。 （3）音楽の美しさを感じ取って聴き，様々な音楽に親しむようにする。			（1） 範唱や範奏を聴いて演奏すること	（1） ハ長調の旋律を視唱したり視奏したりすること	（2） 歌詞の内容にふさわしい表現の仕方を工夫すること	（2） 拍の流れやフレーズ、強弱や速度の変化を感じ取って、演奏したり身体表現をしたりすること	（3） 呼吸及び発音の仕方に気を付けて自然で無理のない声で歌うこと	（3） 音色に気を付けて、旋律楽器及び打楽器を演奏すること	（4） 音の組合せを工夫し、簡単なリズムや旋律をつくって表現すること	（4） 即興的に音を選んで表現し、いろいろな音の響きやその組合せを楽しむこと	音符・休符・記号	（1） 曲想の変化変化を感じ取って聴くこと	（1） 主な旋律の反復や変化、副次的な旋律、音楽を特徴付けている要素に気を付けて聴くこと	（1） 楽器の音色及び人の声の特徴に気を付けて聴くこと、また、それらの音や声の組合せを感じ取って聴くこと		
	時数	題材	ア	イ	ア	イ	ア	イ	ア	イ		ア	イ	ウ		
1学期	様子を思い浮かべて	友だちと楽しく歌おう（6）	○	○	○		◎				𝄆 𝄇				・友達と一緒に斉唱や合唱をする楽しさを味わう。	・さくらさくら ・いろんな木の実 ・おはよう太陽
		二部合唱にチャレンジ（6）	○		○			◎		○					・旋律を階名で視唱したり、簡単な二部合唱に親しむ。	・この山光る ・トトトの歌
	ふしの感じを生かして	歌い方を工夫しよう（7）	○		◎	○		○				○			・旋律の気分を感じ取って、想像豊かに歌ったり演奏したりする。	・エーデルワイス ・「サウンド・オブ・ミュージック」メドレー
		いろいろな歌い方をしよう（6）		○		◎	○				♩				・レガートやスッタカートなどの旋律の特徴に気付き、表現の仕方を工夫する。	・まきばの朝 ・アマリリス
2学期	いい音選んで	音色のちがいに気付こう（8）	○			○		◎	○		𝅝		○		・音の特徴やその違いを感じ取って奏法や表現を工夫する。	・パフ ・ヨット ・オーラリー ・白鳥
		リズムにあわせて（6）				◎		○				○			・旋律の特徴や音色の違いを感じ取って、聴いたり身体表現を工夫したりする。	・おどりのすきなウンパッパ ・ノルウェー舞曲
	様子を思い浮かべて	ひょうしを感じて歌おう（6）	○		○	◎			○		$\frac{2}{4}$ $\frac{3}{4}$				・楽曲の気分を感じ取って、想像豊かに聴いたり表現したりする。	・もみじ ・おどろう楽しいポーレチケ ・学芸会の歌
		長調や短調のちがいを感じ取ろう（6）		◎				○			♯ ♮			○	・互いの声や音を聴きながら合唱や合奏をしたり、長調と短調の違いを感じ取る。	・まいごのこひつじ ・走れシベリア鉄道 ・メヌエット ・小さな物語
3学期	みんなであわせて	2つのふしを重ねよう（6）	○					○	◎		$\frac{4}{4}$ タイ			○	・楽器の音や声の重なりを感じ取りながら友達と合わせる楽しさを味わう。	・茶色の小びん ・喜びの歌 ・ホルン協奏曲
		物語の様子に合う音を工夫しよう（8）			○				○	◎					・物語にあった音や音楽を考えて想像豊かに表現する。	・つるのおん返し ・きょうりゅうとチャチャチャ
	明るい声で	楽しく歌おう（5）	○	○	◎		○								・歌詞の内容を理解し曲想を感じ取り工夫して歌う。 ・発声や呼吸の仕方に気を付けて歌う	・プパポ ・お日さまにジャンプ ・国歌「君が代」

Ⅳ　研究の成果と今後の課題

1　研究の成果

児童自らが課題の解決に向かって主体的に取り組み，その実現を実感するとともに，さらに新しい課題を求めて学習を深められるようになることを願って研究を進めてきた。本研究はまだ途上であり，これからの実践によって，より具体的に成果をもとめたいと考えている。

１年間の研究で確認したことを次のようにまとめた。

(1)　常に児童の側に立つこと

今までも児童主体でということを考えて計画を立てたり，実践したりしていたつもりであったが，改めて「何のための活動か」「本当に児童はそうしたいと思っているのか」と教師自身が指導を振り返ることが大切であることを確認した。そして，「このようなとき，児童はどう考えるだろうか」「この方法で児童は活動できるだろうか」と常に児童の気持ちや考えを引き出す立場で学習計画を立て，授業を進めることが大切である。

(2)　児童自らが振り返り，成果を実感するためにできること

学んだことが自分のものになったと児童が実感するために，児童が自ら課題をもち創意工夫を重ね課題を解決する活動の流れにおいて，教師が行う工夫はどのようにあるべきかを追究し，次の３点にまとめた。

ア　児童が自ら課題をもつようにするために，教師は題材の目標を明確にし，話す，演ずる，聴くなど教師の具体的意図的な言葉かけや動きを通して，音楽的な美しさや表現の楽しさを児童と一緒に感じ取るとともに，児童が感じ取ったたことを引き出し実感させることが大切である。

イ　児童が集団の中で自分を生かしながら，友達のよいところに気付き，刺激を受け合い，自分の学習を深めていくために，それぞれの学習形態のよさを十分に把握し，計画的に取り入れるようにすることが大切である。

ウ　児童が自らの学習を振り返る場を意図的に設定し，児童が課題の取り組みの状況に気付き，さらに意欲をもって取り組み続けることができるようにすることが大切である。

2　今後の課題

「児童一人一人に課題をもたせること」「児童一人一人の課題を教師が見極めること」は，研究を進めていく中で，予想を進かに超える難しさがあった。児童一人一人が充実感をもつようにするために，研究で確認したことを日々の授業の中で実践することが課題である。

今後は，実践を通した研究を重ねていかなければならない。さらに，十分に学習内容や教材を分析し，児童にあった適切な学習内容とその実現のための教材を選択できるようにしていきたい。

これらの実践を進める基本は，教師の児童一人一人のありのままの姿を受け止め深く見極めていく力である。今後も児童を深く理解し，山積している課題の解決に向けて，一歩一歩進んでいきたい。